

平成28年
4月15日発行

No.88

ろくのへ 議会だより

■編集／六戸町議会広報委員会

〒039-2392 青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字前谷地60

TEL:0176-55-3111(代表) FAX:0176-55-3112

ホームページ <http://www.town.rokunohe.aomori.jp>

Eメール gikai@town.rokunohe.aomori.jp



もりもり、おいしいね!

2月16日、総務常任委員会は大曲小学校の視察を行いました。写真は1年生の子どもたち。

この日の献立は、ミートソーススパゲティ、イタリアンサラダ、デコポン。大きな口を開けておいしそうに食べていました。

(視察の詳細は11ページ)

【第1回定例会】

農業・子育て支援を重点に決まる …… 2

【予算特別委員会】

28年度予算を徹底審議 …… 4

【一般質問】

2人の議員が質問 …… 6

【議会視察研修報告】

新しいまちづくりを視察 ほか …… 10

【町民と議員との意見交換会】

自分の町、みんなで語ろう! …… 12

農業
子どもは宝

人づくりで町を豊かに

3月定例会が3月4日から10日までの7日間で開催されました。平成28年度の一般会計、各特別会計の予算では、予算特別委員会を設置し、徹底的に審議しました。(詳しくは4ページ)
このほか、平成27年度補正予算5件や条例案件、人事案件などすべて原案のとおり可決・承認し、閉会しました。

当初予算

○平成28年度一般会計
予算

一般会計予算は、歳入歳出予算総額をそれぞれ54億6千万円とし、前年度当初予算と比較して1.1%増となりました。

補正予算

○平成27年度一般会計
補正予算

既存の歳出に、主なものとして、六戸町若者定住支援事業補助金の限度額の引き上げとして453万円、低所得の高齢者向けの給付金として4千350万円、農業振興の補助金としての担い手確保経営強化支援事業に1千33万円を計上しました。

平成27年度各会計補正予算(いずれも全会一致で可決しました)

会計名	補正前	補正額	補正後
一般会計	56億4463万円	6323万円	57億786万円
国民健康保険事業特別会計	15億5892万円	1782万円	15億7675万円
下水道事業特別会計	3億797万円	85円	3億882万円
介護保険事業特別会計	14億3249万円	3千円	14億3249万3千円
後期高齢者医療特別会計	9869万円	574万円	1億444万円

条例など

条例改正など17議案を審議し、すべて原案のとおり可決しました。(詳しくは8・9ページ)

○町職員の給与月額、勤勉手当の支給割合を見直す

県人事委員会の勧告を考慮し、給与月額、勤勉手当の支給割合の改正を行います。

12月の勤勉手当：100分の72、5から77、5への

○町議会議員の報酬を見直す

期末手当の支給割合を100分の150から160とします。この議案について反対討論がありました。

反対討論

川村重光議員

人事委員会の勧告ということで感謝するが、町の現状とそぐわないと思う。介護保険料や国民健康保険税の大幅な引き上げがあるなか、自分の期末手当を引き上げることが町民に説明がつかないので反対する

賛成討論

山本 実議員

当町は政務調査費がなく、議員は自費で調査していることを考えれば、この条例改正は適切な判断である。さらに、特別職との給料のバランスを考えれば賛成せざるを得ない。

母良田昭議員

以前、県内の費用弁償を廃止し、議会基本条例も制定して議会改革に日々取り組んでいることなどを考慮して、賛成である。

人事案件

○人権擁護委員

人権擁護委員に

坂本 りつさん

(金矢地区)

竹島 敏男さん

(折茂地区)

を適任である旨の意見を添えて答申しました。

○代表監査委員

次の方を代表監査委員に同意しました。任期は、平成28年4月1日から平成32年3月31日までです。

吉田 透さん

(川原新田地区)

昭和30年4月19日生

六戸町大字折茂字前川

原53番地1

○副町長

保土澤 正教さん

(鶴喰地区)

平成28年3月31日をもって任期満了となりますが、再任となりました。任期は、平成28年4月1日から平成32年3月31日までです。



「子どもたちは町の宝物」こども園えがお (小松ヶ丘地区)

今年の
予算

町の基盤、
子育て支援、

28年度の
予算



に注目!

コウノトリ支援事業

少子化対策の一環として、不妊治療を受ける夫婦の経済的負担を軽減するため、県の特定不妊治療助成事業の交付決定を受けた方を対象に、10万円を限度として町から上乗せ助成します。



六戸元気アップポイント事業

町民の皆さんができる限り自立し、住み慣れた地区で暮らせるように、さまざまな健康づくりに参加するとポイントが付き、集めると町内で使える商品券などがもらえます。



農業者へ支援

町の基幹産業である農業の振興に向け、農業用機械の導入を支援する事業、新規就農者の支援を行う青年就農給付金などを継続します。



第3子以降の保育料を無料

子供が3人以上いる家庭が対象となります。よりよい子育てを支援します。



6歳児の虫歯予防を実施

町内に住む6歳児の希望者を対象とし、虫歯予防に効果のあるフッ素を塗布する事業を行います。



こんなふうに使われる町の予算

〈一般会計の中身〉

%は構成比 ()内は前年比較



土木費 11.4%
6億1815万円
(+1816万円)



民生費 29.3%
15億8465万円
(+3452万円)



教育費 12.7%
6億8944万円
(-9344万円)



総務費 15.2%
8億2282万円
(+1021万円)



衛生費 7.0%
3億7981万円
(+1092万円)



公債費 9.3%
(借金返済)
5億440万円
(-770万円)



農林水産費 7.5%
4億875万円
(+1億285万円)



議会費ほか 1.5%
8345万円
(-861万円)



消防費 4.8%
2億5949万円
(-2160万円)



28年度予算

徹底的に審査

3月定例会に提案された平成28年度各会計予算は、本会議で設置された「予算特別委員会」（委員長 河野豊）に付託し、3月8日・9日に審査されました。

審査の結果、委員全員の賛成により了承され、本会議で原案のとおり可決されました。

審議内容

一般会計 歳出

総務費

○ 町民バス

○ 高坂 茂委員

町民バス運行の委託料だが、去年の予算と比べ900万円増えた理由は

○ 下田総務課長

大曲小学校のスクールバスの増便と、三沢駅への乗り入れが増加したためです。

○ 職員の特別旅費

○ 下田敏美委員

国際化に向けての職員派遣の旅費で985万9千円とあるが、過去を振り返ってみると成果が出ていない気がする。どう考えるか

○ 吉田町長

まず、総額のうち3分の1以上は国から交付金として入ってきます。

次に、成果という点では、これからの六戸町のことを考えますと、国際化に向けて意見を発信できる人材をつくり上げておくということが大事だと考えております。

衛生費

○ コウノトリ支援事業

○ 種市正孝委員

新規の事業であるが、給付の制限はあるか

○ 川村（星）福祉課長

県の特定不妊治療助成事業の交付決定を受けた方を対象に、10万円を限度として町から上乘せ助成します。給付の条件も県で決めた回数となります。

○ 高坂 茂委員

少子化対策としては非常に有意義な事業だと思いが、周知の方法は

○ 川村（星）福祉課長

町の広報、ホームページはもちろんですが、保健師の町内巡回訪問やさまざまな相談を受けたときにご案内をしていきます。また、県の事業ですので、県でも周知します。

農林水産業費

○ 久田伸一委員

ベジタラント六戸のPR看板とパネルだが、どこに設置するのか

○ 外山産業課長

まず、ベジタラントろくのへPRパネルは庁舎ロビーに設置予定です。次に、PR看板設置工事ですが、道の駅の敷地内を考えております。

○ 青年就農給付金

○ 久田伸一委員

青年就農給付金に1950万円とあり、去年より増えている。詳しい人数と今後の見込みは

○ 外山産業課長

平成27年度末現在で11人が受給しており、28年度については新規の方を2人と見込んでおります。

○ ひと・農地プラン

○ 久田伸一委員

ひと・農地プランの対象となるには、青年就農給付金を受給することが条件とあるが、町内には若い後継者が結構いるのに、なぜそういう人たちを組み入れることができないのか。今後の六戸町を考えると必要では

○ 保土澤副町長

ほかの自治体がどういう取り扱いをしているのか、あるいは県のひと・農地プランの位置づけが1つの世帯の中で可能なのかも含めて、宿題として預かって検討させてほしい。

○ シヤモロック生産組合の補助金

○ 山本 実委員

補助金とは、新事業などを立ち上げ、いずれひとり歩きができるように補うことだと考える。長

各会計予算額	平成28年度	各 会 計 名			
		本年度予算額	前年度予算額	前年対比	
一	一般	54億600万円	53億9620万円	980万円	101.1%
	国民健康保険事業特別会計	15億4357万円	15億5887万円	-1530万円	99.0%
	国民健康保険病院事業特別会計	5億9962万円	5億9576万円	386万円	100.6%
	下水道事業特別会計	2億8173万円	2億9797万円	-1623万円	94.5%
	農業集落排水事業特別会計	1億3432万円	1億3586万円	-153万円	98.8%
	農介護保険事業特別会計	14億1916万円	14億1694万円	222万円	100.1%
	期高齢者医療特別会計	1億420万円	9727万円	693万円	107.1%
	霊園事業特別会計	925万円	929万円	-4万円	99.5%
	合 計	94億9687万円	95億0816万円	-1129万円	99.8%

年、補助を続けているのだから、できる状態になっているはずである。現在の状況と効果は

【答】 外山産業課長

平成16年から27年までのデータでは、平成18年、19年が3千羽を出荷しております。最近では2千羽を下回っています。

平成10年から町の補助金を交付していますが、平成10年は66万5千円。それが毎年少なくなり、平成27年は36万円で、この10年から27年の間に補助金を863万1千円交付しています。

シャモロックの各種イベントに積極的に参加・出店、そのほかスモーク加工など、販売活動も定期的に実施し、町の特産品の活性化にもつながっている。十分効果は上がっていると思います。

【問】 山本 実委員

先ほどの説明だと、生産羽数も減り、組合員数も減っているということ。効果がないものに補助を出し続けているという理解でよいか

【答】 保土澤副町長

効果があるという見込み、もしくは効果を持続したい、そういう目的を持って交付しています。

【問】 山本 実委員

これだけ長年、補助をしてきて、十分ひとり歩きがきているだろうか、補助はやめるべきだ

【答】 吉田町長

今、羽数の話も出ましたが、シャモロックは県の登録のものなので、飼育をやらなければならないので、大きくやりたくても羽数の配分の関係が大きく占めています。

六戸産のシャモロックをもっと高めるように、町も協力すべきだと思うので、ご理解いただきたい。

【商 工 費】

○ まちなか六興祭事業

【問】 高坂 茂委員

この事業は、南部祭囃子が趣向を変えたという理解している。名前を変えたら分かりづらくなるのでは

【答】 外山産業課長

昨年までの南部祭囃子大競演会事業のタイトルを変えました。ほかに、町の商店街が活気を取り戻すためにバンド演奏、フリーマーケット、出店屋台、参加型イベントを商店街で行います。

タイトルの変更は、実行委員会から要望が出たためです。

○ オープンチャリティ

【問】 苫米地繁雄委員

チャリティ事業に補助金を出すとというのは、あり得ない話だ。「六戸ゴルフ大会」などに変えるべきだ

【答】 吉田町長

捉え方によってはご意見のとおりだと思いますので、実行委員会に適切な名称にしてもらうよう申し伝えたい。

○ 青年女性カップリン

【問】 長根一男委員

グパティー
一年に1回の開催とあるが、もう少し予算を増やして回数を増やすべき

では。婚活を一生懸命やってもらいたい

【答】 吉田町長

回数を増やすことは、お金うんぬんではなく、実施する側によるため、まずはその旨を、担当課長、主催者側に伝えます。

○ 六戸ブランド推進事業

【問】 川村重光委員

ブランド推進事業の目標は

【答】 外山産業課長

現在は、観光協会の中にブランド研究会を組織して、町の特産品等の販売促進PR事業を行っています。町の食材を活用した料理教室や、シャモロックをスモーク、サラミに加工する実践活動をしています。その事業の中でコーディネート、専門家を招き、現在ブランド研究会のメンバーと一緒に検討し、最終目標を考えているところです。

【問】 川村重光委員

この事業をふるさと納税の事業と連携しては

【答】 外山産業課長

現在は連携はしておりませんが、今後、ブランド研究会のほうで独自にシャモロックを使った加工品の開発も考えていますので、将来的には、ふるさと納税の贈答品に使用できるかと思っています。

【土 木 費】

○ 館野公園トイレ

【問】 高坂 茂委員

館野公園トイレの水洗化設計業務だが、完成するのはいつか
また、トイレ内の便器についても全て洋式にすべきだと思うが

【答】 松村建設下水道課長

平成28年度は実施設計を組み、平成29年度に工事を計画しています。便器の洋式化も検討します。

○ 道路新設改良費

【問】 山本 実委員

柳沢橋外橋梁補修調査設計業務とあるが、この橋か。それから、高見大曲線ほか、と工事請負費の具体的な場所は

【答】 松村建設下水道課長

柳沢橋ほかというのは、1つは通目木地区の旧鈴木商店近くの橋です。もう1カ所は鶴喰地区です。高見・大曲線のほかは、たての台団地地区、旧年度継続です。あとは赤田橋の補修もここに入っています。去年もやりましたが、2年で計画して来年終わります。さらに、金矢地区の工業団地の町道を計画しています。

○ 公園の遊具

【問】 山本 実委員

町民の中に公園に遊具が足りないという方が結構いる。遊具を新たに設置する考えは

【答】 松村建設下水道課長
年度以降検討して、どのようなものかいいか考えます。



しもだ とし み 議員
下田 敏美

スポーツ振興による町の活性化を

関係機関と協力してボトムアップを図る — 町長

問

子どもたちの憧れとなる優秀選手（ヒーロー）の創出を望みたいが、そのためのスポーツ指導者の育成をどのように考えているか

町長

スポーツ選手を指導する上で非常に重要であり、常に新しい指導方法や技術等を学ぶことが必要と捉えております。

関係機関と連携を図りながら先進自治体の事例について情報収集を行い、指導者研修会への参加、指導者の資格取得に向けた支援策等の検討を考えています。

問

やはり指導者と岩手県を見ると、大谷の出会いだと思う。

翔平選手以外に、楽天イーグルスに銀次という選手がいる。

彼は人口2千945人の普代村出身で、日本を代表する選手になった。

よって、六戸に置き換えたとしても、私は決して不可能ではないと思う。可能性秘めた子どもたちはいっぱいいる。よって、我々大人が指導者と呼んだり、機会を設けることも必要だと思うが

町長

野球の指導者ばかりではなく、様々な競技で全国的な好成績を上げている方もいます。その方々がどのような指導者と巡り合い、その家族、子どもたちの努力があるのかを、改めてスポーツ振興をボトムアップするための応援になるのかを、私どももこれを機会に検討したい。

問

優秀選手を育成するために、中・高、各学校の有能な

体育会系の教師を増員すべきと思うが

教育長

教員の増員については、定められた定数以上は各自治体で独自に雇用することになるので、慎重に検討することが必要となります。

教育委員会としては、学校と相談しながら、定数内で指導にたけた人物の転入を図りながら、スポーツの振興に努めたい。

問

教育長の答弁だが、条件が決まると言えばもう夢も希望もない。その殻を破って教育者の力を発揮してもらいたい。

このままだと何も変わらない。ぜひ教育長、アクションを起こして学校を変えてほしい

教育長

下田議員が言われたことは十分認識しながら、こ

れからも教育行政に携わっていきたいと思っています。

問

有能な指導者を確保する方法として、町職員を募集する際、隔年に1回、または数年に1回全国からアスリートを絞って採用し、勤務終了後は指導者として活躍してもらってはどうか

町長

アスリートとして活躍されているのであれば、選考の段階で参考にすることは可能だと思いますが、採用の主たる基準とするのはいかにかと思います。

また、町の職員として採用し、指導者として勤務時間外を拘束して手伝わせることは、法的にも非常に難しさがあります。あくまでも本人の意思で地域ボランティアとして指導協力していただくのであれば、町のスポーツ振興に貢献できるものと考えます。

問

六戸高校野球部へ監督を派遣し、甲子園出場を標榜しては

町長

地元の高校が甲子園に出場できれば、地域にとってプラスになると考えております。ただ、現実的に職員を監督に派遣することはハードルが高いと思います。

問

子どもたちにスポーツ合宿を通じて、情操教育、連帯・協同精神を醸成するために、合宿所の建設はどうか

町長

合宿は、礼儀作法を超えた人間形成の醸成に役立つものと捉えています。また、当町に合宿可能な専用施設はありませんが、今後必要とする機会が増えてきた場合には、今後新たに施設を建設するよりも、広域的な観点で利活用するほうがベターだと考えます。



すぎやま しげお
杉山 茂夫 議員

過去の一般質問、検討事項の その後の対応は

問 館野町営住宅跡地
のその後の検討
結果と今後の方針を問う

町長 館野住宅跡地は、公園や福祉センターに近く、良好な住宅環境としての土地利用がなされるべきと考えるが、全体が県の遺跡指定地で、建物等の建築は試掘が必要なことや売却のためには町道を含め土地分筆が必要なこと等、具体的利用方針の策定に至っていない。

今後、道路部分に関して文筆整理を行い、地域住民の意見を反映させながら、区画の公共的利活用を検討し、残地が発生する場合は売却も含め考える。



現在の館野町営住宅跡地

問 ふるさと納税の特典について「平成27年度より町ホームページで掲載し宣伝する方向で検討する」との回答があったが、その後の実施状況を問う

町長 現在ふるさと納税の寄附者に対し、感謝の気持ちで2,000円程度の農産品詰合せを送っている。この返礼品の特典についてホームページ等の掲載と宣伝の仕方を検討していなかった。

たことを申し訳なく思う。返礼品については贈答品として扱えるようにパッケージングや種類・数量など工夫して、担当課とも協議をしながら総合的に対応していくように努力したい。

副町長 ふるさと納税の特典の掲載と宣伝の実施を検討すると回答したが、その進行管理をすべき私が、本来、寄附は対価を求めるものではないという考えで、職員に対して適切にふるさと納税のPRの指導方法を徹底できていなかったことについて、深くお詫びを申し上げたい。

今後は、町ホームページのトップページにふるさと納税を置いてワンクリックで納税をPRできる、また特典としての返礼品と返礼率や寄附の区分等々について、早急に検討チームを立ち上げて実施したい。

問 健康づくりマイ
レージポイント事
業について「健康ポ
イント事業は有効な施策と考
え、実施する市町村の状
況を見ながら検討する」
との回答があったが、そ
の後の取り組みを問う

町長 健康ポイント事業は、若年層から高齢者までの健康づくりや介護予防事業の推進、さらにボランティア活動の促進を図り、健康長寿の町を目指しつつ医療費や介護給付費の抑制を図るため、今年度多くの元気アップポイント事業として取り組みます。

ポイントカードは機械で自動読取りするICカードで、健診・介護予防とボランティア等も対象とし、ラジオ体操、ウォーキングについては、自己申告制度で実施したい。



毎朝のラジオ体操もポイント対象に

福祉課長 ろくのへ元
気アップポイ
ント事業は、福祉課包括
支援センター、教育課、
社会福祉協議会で実施す
る健康づくり関連の事業
やボランティア活動に参
加した方にポイントを付
与し、一定ポイントを超
えた場合に、翌年度にお
いて商品券への交換や、
小中学校の応援に考え
ている。

ポイントカードは機械で自動読取りするICカードで、健診・介護予防とボランティア等も対象とし、ラジオ体操、ウォーキングについては、自己申告制度で実施したい。

審議した議案と各議員の



・賛成が○、反対は×と表示しています。
 ・退は退席、欠は欠席を表示しています。
 ・円子徳通議長は採決には加わりません。

議案番号	議案名	長根一男	種市正孝	杉山茂夫	久田伸一	高坂茂	下田敏美	川村重光	河野豊	母長田昭	山本実	苔米地繁雄	審査結果	議決日
承認1号	専決処分の報告について 六戸町税条例等の一部を改正する条例の一部を改正する条例	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案承認	3 / 10
議案1号	青森県新産業都市建設事業団に委託すべき事業に関する計画の一部変更に係る協議について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案2号	十和田地域広域事務組合規約の変更について	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案3号	行政不服審査法の施行に伴う関係条例の整備に関する条例案	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案4号	六戸町情報公開・個人情報保護・行政不服審査会条例案	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案5号	六戸町固定資産評価審査委員会条例の一部を改正する条例案	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案6号	職員の分限に関する手続及び効果に関する条例の一部を改正する条例案	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案7号	六戸町職員の退職管理に関する条例案	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案8号	六戸町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例案	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案9号	六戸町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例案	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案10号	六戸町特別職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例案	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案11号	六戸町議会の議員の議員報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例案	×	○	○	○	×	○	×	○	○	○	○	原案可決	
議案12号	六戸町国民健康保険税条例の一部を改正する条例案	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案13号	六戸町奨学資金貸付基金条例の一部を改正する条例案	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案14号	六戸町重度心身障害者医療費助成条例の一部を改正する条例案	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案15号	六戸町介護保険条例の一部を改正する条例案	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案16号	六戸町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案17号	六戸町指定地域密着型介護予防サービスの事業の人員、設備及び運営並びに指定地域密着型介護予防サービスにかかる介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案18号	六戸町公園条例の一部を改正する条例案	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案19号	平成27年度六戸町一般会計補正予算(第5号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	3 / 4
議案20号	平成27年度六戸町国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案21号	平成27年度六戸町下水道事業特別会計補正予算(第3号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案22号	平成27年度六戸町介護保険事業特別会計補正予算(第3号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案23号	平成27年度六戸町後期高齢者医療特別会計補正予算(第3号)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	

公民連携手法による新しいまちづくりを視察

(岩手県紫波町・金ケ崎町)

3月14日、15日の2日間で岩手県紫波町の公民連携で進めた「オガールプロジェクト」と、官民挙げての企業誘致、金ケ崎町のトヨタ自動車東日本岩手工場を視察しました。

新しい手法のまちづくり

オガールプロジェクトの流れとして、町の中央に新駅の誘致、駅前開発、そして平成13年採算

面や基金の減から、この開発は事実上凍結となり、公共施設用地として10・7畝を先行取得（28億5千万円）した土地が開発されないうまま塩漬け状態となった。

平成19年、駅前の有効活用のために、町と民間会社との連携を進めることとなり、成果をあげている。

ほかの公民連携との違いは、徹底的な採算モデルを考え運用する、考え抜かれた事業形態である。従来の公共事業はもっぱら補助金ありきで事業計画がスタートしていて、責任の範囲があいまいであるが、このプロジェクトのすばらしい所は、直接的な補助金はもらわず町や民間の出資の形がとられ、責任が明確な所である。

さらに、公共の部分では「町はこうあるべき」という紫波町のビジョンが随所に具体化されてい

る。町民が「活発に勉強会」を開き、役場の関係者も参加して、活発なデイスカッションを行って進めてきたからである。

六戸町も八戸、十和田、三沢に囲まれ環境的には恵まれている。

町民が「町づくりに活発に参加する環境」を整える、「民間のアイデア」を取り込む、事業にあたっては「責任の所在」を明確にすることが六戸町の発展のポイントと思う。

小松ヶ丘地区の発展と共通点があると思われる、今後六戸町中央の開発にも参考としたい。

自動車産業集積の実態を視察

岩手中部工業団地内にあるトヨタ自動車東日本岩手工場の視察から、官民挙げての自動車関連産業の育成、雇用機会の創出の現状を調べ、今後の

当町の企業誘致の参考とした。

同社の進出には、岩手県や複数の県からのオフアアがあったが、県や金ケ崎町の熱心な誘致活動があったからである。

最終的に「優遇制度や積極的な支援など地元の協力体制」、「高速道路、新幹線、空港、港など交通アクセスの条件」、「インフラ整備された工場建設に適した土地」、「人材が豊富」の4項目を評価して金ケ崎町に進出した。

現在、2千人以上の従業員が働いており、家族を含めるとかなりの人口となり近隣市町村への波及効果は計り知れない。

トヨタ自動車東日本岩手工場と金ケ崎町、さらに近隣市町村との関係は良好に機能し、企業と自治体はさまざまな交流を通して共生関係にあり、双方とも大いに発展している。

(川村重光)



紫波町オガールプロジェクトの研修

オガールってなに？



方言の「おがる=成長する」+フランス語の「ガール=駅」を指し、オガールプロジェクトは「紫波中央駅前都市整備事業」を指します。

町有地を公民連携でフル活用し、役場庁舎や住宅地の分譲のほか、官民複合施設など「循環」をテーマとした町民の幸せを目指したまちづくり。エリア内には、公共施設の図書館や交流センターのほか、岩手県フットボールセンター、民間施設の医療機関やカフェ、宿泊施設、コンビニ、産直など多くの施設が配置され、まちづくりの成果が表れている。

大曲小学校 視察報告 - 総務常任委員会 -

2月16日、総務常任委員会では、昨年の学校給食における異物混入事件を受けて、給食の状況とその後の管理体制の改善を調査する目的で、大曲小学校を視察しました。

校長から給食について説明を受けた後、実際に給食センター等から搬入された給食が、1階の保管室に施錠される様子や校内の各階にエレベーターで配膳される様子、また常に2人の先生が給食をチェックした後、給食当番が各児童に手渡しする一連の改善された流れに立ち会いました。今後は、二度とこのような事件が起きないように、願っています。

また、大曲小学校の児童の増加による教室不足で、音楽室や図書室等の特別教室が普通教室に変えざるを得ない現状を、早急に町執行部に働きかけながらも、六戸町

小中学校全体の教育体制の中で、長期的視点から考えなければならぬものと改めて考えました。

総務常任委員会 副委員長 杉山 茂夫



給食センターから運ばれた品物を検品

全国町村議会表彰受賞

- 六戸町議会で決まる -

このたび、六戸町議会は、全国町村議会表彰を受賞しました。(県内で1議会)

審査基準として、

- ①政策づくりと監視機能を発揮している
- ②住民に開かれた議会
- ③地域振興に取り組みをした議会

の3つの重点項目で選定されました。今年度は、全国の町村議会の中から27議会が選ばれました。

当議会は、この表彰に満足せずに、今後も更なる議会の向上に取り組んでいきます。



表彰を受け、感謝の言葉を述べる円子議長

さわって、なぞって実際に体験

- タブレット端末体験研修会 -

ペーパーレス（紙を使わない）化による経費削減や、資料の更新・差し替えが瞬時に行えるなどで、注目されているタブレット使用について、1月25日に役場3階会議室で研修会が行われました。

最初に、平成25年度より議会運営にタブレット端末を導入した、神奈川県逗子市議会の事例の紹介があり、次に各議員がそれぞれタブレット端末を手に取り使用法の説明を受けました。

操作は、画面を指で軽く触る・なぞるなど、とても簡単で研修時間内でも基本的操作ができるようになりました。(種市正孝)



タブレット片手に操作に熱中

まちの未来がわかる

議会傍聴 どうですか？

次回は6月に定例会があります。詳しくはこちらまで

☎ 議会事務局 ☎55-4547 (直通)



29人

町のみんな
×
議員

12人



女性ならではの意見も多くみられた



話し合いの前にみんなで柔軟運動。体と心をほぐす

テーマ① 六戸町の誇れるところ、 残念なところ

誇り 😊

- ・災害が少なく、住みやすく、交通アクセスもよい
- ・人の優しさ、つながりが強い
- ・大相撲立行司、木村庄之助の出身地
- ・郷土芸能など伝統文化の継承
- ・町のイベントや文化ホールの行事が多い
- ・農業が盛んで野菜がすばらしい
- ・六戸産シャモロックが有名
- ・子ども医療費がタダ、子育てがしやすい
- ・小松ヶ丘地区の発展による人口増加
- ・若者が活発で団結力があり、まちづくりに努力している
- ・町なかにゴルフ場、総合運動公園、体育館がある
- ・役場周辺の公共施設及び駐車場が充実

残念 😞

- ・企業の数と、働く場が少ない
- ・地域と世代間の交流が少ない
- ・町立病院の将来と、地域医療の確保が心配
- ・町民が自分の町のことを知らない
- ・国保税、介護保険料など含め税金が高い
- ・国道45号線に商店が少なく賑わいが少ない
- ・観光資源として、旧苫米地家や舘野公園、郷土資料館の活用がなされていない
- ・六戸産の野菜を気軽に買えない
- ・町特産品のPR不足
- ・道の駅の駐車場が狭く、品揃え不足
- ・食事場所や喫茶店が少なく、ビジネスホテルもない
- ・選挙の投票率が低く、町議の選挙公報も出ていない
- ・卒業した若者が町を出て行く
- ・若い人の出会いの場がない
- ・子どもの遊び場や遊具がない
- ・生活道路の整備が遅れている

平成28年2月27日、就業改善センターで町民と議会との意見交換会を行い、町の皆さん29人と全議員12名が参加しました。

今回の意見交換会は、青森中央学院大学准教授の佐藤淳氏をコーディネーター役に迎え、話し合うテーブルを渡り歩いて意見を出し合うワールドカフェ方式で行いました。

自分たちの町、六戸町について①誇れるところ、残念なところ②20年後、どんな町になつてほしいか③そのため、町民と議員が大切にしたいこと、を8テーブルで話し合われました。

抜粋したものを紹介します。

意見交換会で出された意見は、今後の定例会の一般質問や議会活動に活かしていきます。

自分の町、みんなで語るっ！



交換会終盤の様子。活発な意見と笑顔が絶えなかった



議員が聞き役となり、意見を拾い集める

テーマ① 20年後、どんな六戸町に なっていたい？

- ・ 地産地消、循環型社会を目指す町
- ・ 地域ブランドで6次産業の町
- ・ 耕作放棄地がなく、農業で生きていける町
- ・ 高齢者でもできる葉物など軽量野菜の拡充
- ・ 郷土芸能やまつりが継承され、伝統が息づく町
- ・ 仲人・世話役の復活で、婚活の盛んな町
- ・ 六戸高校が有数の進学校となり、大学のある町
- ・ ○○○日本一の町を目指し、全国に知られる町
- ・ 町全体が交流のある町（例えば犬落瀬と小松ケ丘）
- ・ 女性・若手議員がいる議会
- ・ 保育と介護施設の結合化で子どもとお年寄りの居場所づくり
- ・ オリンピック選手やプロゴルファーが出ている町
- ・ 充実した医療と子どもの医療費・保育料タダの町



みんなの意見を模造紙に

テーマ② 町民と議員がたいせつに したいこと

- ・ 広く、町民と話し合い、町民の意見を大切に
- ・ 議員と町民の対話によって情報の共有化
- ・ 各分野における後継者の育成
- ・ 町民の声をいつでも聞ける普段着の議員
- ・ 町民の声を反映させる議員
- ・ 若者と子どもの未来を考えて行動
(小・中・高生と交流)
- ・ Uターン・Iターン者を大切にする
- ・ 人材活用で町民参加による協働のまちづくり
- ・ 町全体で農業振興を図り、6次産業化
- ・ 議員は地域の行事に積極参加
- ・ 一人暮らしの手助けを地域でできる社会

意見 交換会

こんな流れで進みました

テーブルごとの話し合い
(第1ラウンド・テーマ①)

席替え

テーブルごとの話し合い
(第2ラウンド・テーマ②)

席替え

テーブルごとの話し合い
(第3ラウンド・テーマ③)

休憩

全員での振り返り

さまざまな分野で
がんばっている人

町民の皆さんがさまざまな分野でがんばっています。今回は、中塚幸博さんにお話を伺いました。

タフな体、タフな心を グラウンドで

中塚 幸博さん



プロフィール(なかつか ゆきひろ)
南町地区在住。40歳。小学生のときに野球と出会い、以後、現在まで野球漬けの人生を歩む。両親が経営する中塚自動車商会で勤務の傍ら、町内小学校の枠を超えた、六戸町野球クラブスポーツ少年団の代表指導者を務めている。4月30日に行われる学童軟式野球大会の県大会出場が目下の目標。妻、高校生と中学生の二人の子どもの4人暮らし。

「スポ少」から
「クラブ」へ

設立されて7年とのことですが、クラブチームのきっかけは何ですか

中塚 当時から子どもの数が減っていて、どうしてもチームにばらつきが出てしまっていました。

保護者(特に後援会)の方々の後押しもあり、子ども達には小学校の間に野球を通して、野球技術のほかにも人間関係の持ち方も学んでもらえたらと思いきわを立ち上げました。いずれ、子どもはもっと減っていくので、このクラブが土台になればいいのかな、と。

後援会とは…卒団した団員による父母、野球を通じて育ってほしいと思っています。親抜きで合宿や大会開催など、日頃から協力いただいています。

学校の部活からクラブチームへシフトチェンジしているなかで、子ども達とのコミュニケーションが大変ですね

中塚 今までだったら学校グラウンドと両方を知っている先生がいましたが、今は、学校、家庭、グラウン

ドの3つの環境になっっているので、なるべく学校の情報を子ども達からもらうようにしています。

野球を指導するうえで、保護者の方にお願していることはありますか

中塚 お弁当を基本、コンビニ禁止でお願いしています。おにぎり1個でもいいから握ってあげてください、と話をしています。

今はすごい便利で何でもすぐ揃うので、あえて不便に、手を掛けて愛情をかけて、とお願ひしています。

野球の技術的な指導というより、子ども達の内面に向き合って接しているんですね

中塚 よく、タフな体とタフな心をグラウンドで育てましょう、と言っています。タフな体を作るためにはどういうものを食べたらいいか工夫する、とか。自主性・協調性・自律性を求めています。

お仕事しながらの野球の指導は、とても大変だと思えますか

中塚 親父や兄、あと、家

族には本当に感謝しています。シーズンが始まると、土日はほとんど野球で予定が埋まってしまうので。周りからは野球バカって言われています。褒め言葉と受け取っています(笑)

何より、父兄、後援会、ライオンズクラブや地域の方々の支えがあるので、頑張れます。

最後に、六戸町に臨むことはありますか

中塚 町民バスがもっと利用できればいいなと思います。試合や練習で遠くへ行くときに、車を手配するのが一番、保護者に負担をかけています。例えば、多少有料でもいいので、バスを利用できれば、もっといろんな大会に参加できると思います。野球に限らず、サッカーやソフトボールなどもみんな思っていると思います。

聞き手 杉山委員長
種市副委員長

チームメイト募集!!
一緒に野球、やりませんか
◆問い合わせ先 町内小学校の団員まで

「もうすぐ

桜の季節を迎えます」
まちに待った春です。今冬は年前の長期予報では暖冬とのことでしたが、一転とても寒い冬だった気がします。ただ気がかりなのが去年と同じく、雪が少ないことです。去年は田んぼの水が輪番制の地区もあつたと聞いていますが、今年は大丈夫だといいますが、新年度を迎えそれぞれの思いがあると思います。出会い、旅立ち、人生の節目と言えるこの時期にふさわしい躍動の春、北国の春は特別ですね。日本の四季の良さがしみじみと感じられます。

議会広報委員会では見てもらえる、読んでもらえるをコンセプトに努力しています。ご愛読よろしくお願ひします。

広報委員 河野 豊

議会広報委員会

- 委員長 杉山 茂夫
- 副委員長 種市 正孝
- 委員 母良田 昭
- 委員 河野 豊
- 委員 川村 重光
- 委員 高坂 茂
- 発行責任者 長 円子 徳通